(一社)日本断熱住宅技術協会のベルリンでの研修と民主主義について

お茶の水女子大学名誉教授・(一社)日本断熱住宅技術協会理事長　田中 辰明

ベルリンの有名建築訪問

(一社)日本断熱住宅技術協会[1]は欧州外断熱協会と業務提携を結んでいる。その関係で2025年11月12日にミラノで開催された第7回の欧州外断熱フォーラム[2]に招待された。協会は8名の代表団[3]をフォーラムに派遣した。代表団はフォーラムで活発な討論を行った後、研修の場をベルリンに移した。そして隣接されているポツダムを訪問し、外断熱改修された集合住宅団地の調査[4]を行った。ベルリンでも有名建築を訪問し研修を行った。研修訪問先の詳細は省略し写真1～8で示す。

写真1　ベルリンのシンボル、ブランデンブルグ門

古き友人、ボヤシェブスキーさん

ベルリンのホテルでは筆者の古き友人でベルリン在住のマンフレッド・ボヤシェブスキー(Manfred Bojaschewsky)さんをお招きし、夕食をともにしながら、ベルリンやドイツの現状の話を伺った。ドイツでは右翼政党であるAfD(ドイツの為の選択肢)が選挙の度に票を伸ばし、現在第2党になっているのが大きな問題となっているとし、ドイツの一流紙フランクフルター・アルゲマイネの記者が著したAfDに関する本[5]を筆者に寄贈して下さった。筆者は帰国後直ちに同書を和訳し、同時代社から出版した。[6]

写真2　ベルリン市フンボルト大学、かっては森鴎外はじめ多数の有名人が留学した。

ボヤシェブスキーさんはドイツは民主主義国家であるが、選挙の結果が常に正しいとは限らない、民主主義は危ういものになっていると述べた。ドイツ人は現在新聞や本を読まなくなった。選挙もSNSで投票先が決まるようになった。これでは正しい判断が行われるはずがないと述べた。しかしこれは日本も同様であると筆者は感じた。夜も更けてきたので、筆者はボヤシェブスキー氏をホテルの玄関まで送り、部屋に戻り、寄贈を受けた書物を読んだ。民主主義の歴史が語られていた。ナチスも民主主義の掟に従い、選挙で正当な手段で政権を手中にした。しかし、政権をとるや、国会議事堂で放火し、これを口実に共産党の議員を追放するなど、とんでもないことを始めた。これも民主主義が機能しなかった例である。ボヤシェブスキーさんは長い間ベルリンのギムナジウム[7]の教官であった。

既に退職し、かなり時間も経っているが、まだ人を教えるという姿勢が抜けていない。別れ際にこの本も面白いよといってメモをくれた。ここにはフランクフルターアルゲマイネ紙と同様にドイツのインテリの読者を持つ"Die Zeit"紙の記者Mark Schieritz氏の著書[8]であった。筆者は空港の書店で買い求め、帰国した。民主主義

写真3　後方は復旧なった旧ベルリン城、現在はフンボルトフォーラム。歴代のプロイセンの皇帝が住んだが、第一次世界大戦で敗戦したヴィルヘルムII世が1918年11月10日にオランダに亡命し、プロイセン王国は消滅した。

写真4　ベルリン工科大学建築学部

写真5　ベルリンのバウハウスアーカイブ

写真6　ベルリン大聖堂(ドーム)。ウンター・デン・リンデンを挟み旧ベルリン城の反対側に建つ。プロイセン皇帝、妃の棺が納められている。

写真7　旧博物館、カール・フリードリッヒ・シンケル設計(1822-1823)

写真8　国民美術館、フリードリッヒ・アウグスト・シュテゥーラー設計(1862-1864)

が古代ギリシャで誕生し、多くの人がそれに水をやって育ってきた。オリンピックもギリシャで誕生した。しかし現在ギリシャは経済難に喘いでいる。EUの一員としてドイツはギリシャに多大な援助を行っている。ドイツの右翼政党AfDはこれを非難しドイツのEUからの脱退を主張している。ドイツ国民はそれを支持し現在第2党

の勢力を誇っている。「これでよいのか？」と著者は問いかけている。筆者はマルク・シーリッツの著書「民主主義にとってあまりにもお馬鹿さん」を読み翻訳を行い、非常に得るところがあった。

本書より超要約を以下に記す。

民主主義はどのようにつくられてきたのか

── 10人の知性が残した問い

民主主義は完成された制度ではない。賛美される一方で、常に疑われ、批判され、試されてきた。本稿では、古代から20世紀まで、民主主義の形成と防衛に深く関わった10人の思想家・芸術家を取り上げ、その足跡をたどる。

1．民主主義の危うさを最初に見抜いた哲学者 プラトン(Platon，紀元前427年頃－紀元前347年頃)

プラトンは民主主義を無条件に肯定しなかった。むしろ、民衆の判断が感情に流されれば、社会は簡単に混乱すると考えた。師ソクラテスが民主政のもとで処刑された経験は、彼に政治への根源的な不信を抱かせた。プラトンの意義は、民主主義を否定したことではなく、民主主義が抱える弱点を最初に理論化した点にある。

2．民主主義を現実の制度として考えた人 アリストテレス(Aristotélēs，紀元前384年－紀元前322年)

アリストテレスは、理想論よりも現実の政治制度を重視した。彼は人間を「社会的な存在」と捉え、市民が政治に関わることの重要性を説いた。同時に、極端な平等や多数派支配の危険にも目を向けている。彼の分析は、民主主義を冷静に運用するための視点を与えた。

3．きれいごとを捨てて政治を見た思想家 ニッコロ・マキャヴェッリ(Niccolò Machiavelli，1469－1527)

マキャヴェッリは、政治を道徳から切り離して考えた。人は理想的には行動しない──その前提に立ち、権力の現実を直視したのである。彼は、共和国を維持するためには、市民的道徳と現実的判断が不可欠だと考えた。民主主義を守るには現実主義が必要だという厳しい教訓を残した。

4．「人民が主権者である」と宣言した思想 ジャン＝ジャック・ルソー(Jean-Jacques Rousseau，1712-1778)

ルソーは、政治の主役は人民であると明確に打ち出した。『社会契約論』で提示された「一般意志」は、人民主権という民主主義の核心を形づくった。一方で、その思想は多数派の暴走を招く可能性も含んでいる。ルソーは、民主主義の理想と危険を同時に示した人物である。

5．民主主義を動く制度に変えた実務家 ベンジャミン・フランクリン(Benjamin Franklin，1706-1790)

フランクリンは思想家であると同時に、現場の政治家であった。対立を調整し、妥協を重ね、合意をつくる。そうした地道な作業によって、民主主義を実際に機能する制度へと形づくった。彼は、民主主義は話し合いによってしか成立しないことを体現した。

6．国家の暴力を可視化した画家 フランシスコ・デ・ゴヤ(Francisco de Goya，1746－1828)

ゴヤは絵画によって権力の暴力を告発した。戦争や処刑の場面を描いた作品は、国家が掲げる正義の裏側を暴き出す。彼の表現は、民主主義にとって不可欠な「疑う視線」を人々に与えた。芸術もまた民主主義を守る力であることを示した存在だ。

7．革命が恐怖に変わる瞬間を描いた作家 ゲオルク・ビューヒナー(Georg Büchner，1813-1837)

ビューヒナーは、革命の理想が恐怖政治へ転じる過程を描いた。人民の名のもとに行われる暴力を冷静に見つめ、自由の名が人を殺す理由になることを示した。彼は、民主主義が内部から崩れる危険を鋭く告発した。

8．民主主義を支える仕組みを分析した学者 マックス・ヴェーバー(Max Weber，1864－1920)

ヴェーバーは、民主主義を支える制度や組織に注目した。官僚制や法にもとづく支配は社会を安定させるが、人間を縛る危険もある。政治には情熱だけでなく責任が

写真9　ホテルを訪問してくれたマンフレッド・ボヤシェブスキーさんと筆者

必要だという彼の考えは、現代民主主義にもそのまま当てはまる。

9．民主主義が失われる瞬間を記録した証言者 シュテファン・ツヴァイク（Stefan Zweig, 1881-1942）

ツヴァイクは、自由で開かれたヨーロッパ文化が崩壊する過程を体験した。民主主義は永遠ではなく、守らなければ簡単に失われる。その事実を静かに語った彼の作品は、民主主義の脆さを伝える記録である。

10．全体主義に言葉で抗った作家 ジョージ・オーウェル（本名：Eric Arthur Blair, 1903-1950）

オーウェルは、監視と嘘によって人間の自由が奪われる社会を描いた。彼が警告したのは、暴力よりも言葉の操作の恐ろしさである。真実を語り続けること――それこそが民主主義の最後の防波堤だと、彼は示した。

結び

民主主義は信じるだけでは守れない。疑い、考え、批判し続けることでしか存続しない。ここに挙げた10人は、民主主義の「完成」を語ったのではなく、民主主義とどう向き合うべきかを問い続けた。その問いは、今を生きる私たちにも向けられている。

［註］

1．所在地：〒102-0093　東京都千代田区平河町2-11-1平河町ローンステート1F　Tel. 03-3512-2066，井上薫事務局長

2．田中辰明「第7回欧州外断熱フォーラム（7th European ETICSorum 2025）に関する報告-技術・企画・サスティナビリティの最新動向：月刊建築仕上技術2026年2月号

3．（一社）日本断熱住宅技術協会からの第7回欧州外断熱Forumの参加者は次の方々である。
田中辰明（（一社）日本断熱住宅技術協会理事長）、岡部和也（㈱ジャストアンダー）、上原正人（㈱エムズ）、中衆司（三和建装㈱）、大橋周二（㈲大橋建築設計室）、金子勲（㈱A＆Cサポート）、鈴木浩之（Stojapan㈱）、山口洋介（Stojapan㈱）

4．田中辰明「（一社）日本断熱住宅技術協会のポツダムにおける研修」月刊建築仕上技術2026年4月号

5．Justus Bender, “Was will die AfD? “Penguin Random House Verlagsgruppe

6．ユストス　ベンダー著、田中辰明訳「なぜAfDは支持されるのか-右派ポピュリズム政党の秘密」同時代社

7．日本の旧制の高等学校に相当する。ここを卒業すると無試験で大学に進学できる。

8．Mark Schieritz” Zu dumm für die Demokratie “Droemer（民主主義にとってあまりにもお馬鹿さん）

★2006年度・㈶住宅総合研究財団出版助成図書／★NPO法人外断熱推進会議推薦図書
外断熱研究の第一人者が新進学者と共に放つ外断熱住宅の入門書
これからの外断熱住宅
お茶の水女子大学名誉教授 工博　田中 辰明
お茶の水女子大学 博士　柚本　玲 著
◆体　裁／B5判・116頁・平綴製本・カバー付
◆価　格／2,530円（税込・送料別）
◆発行元／㈱工文社
ご注文は FAX 03-3866-3858 もしくは 巻末ハガキ で工文社まで